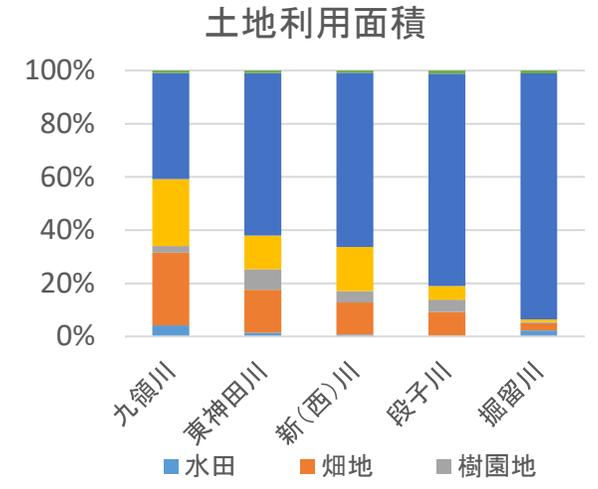
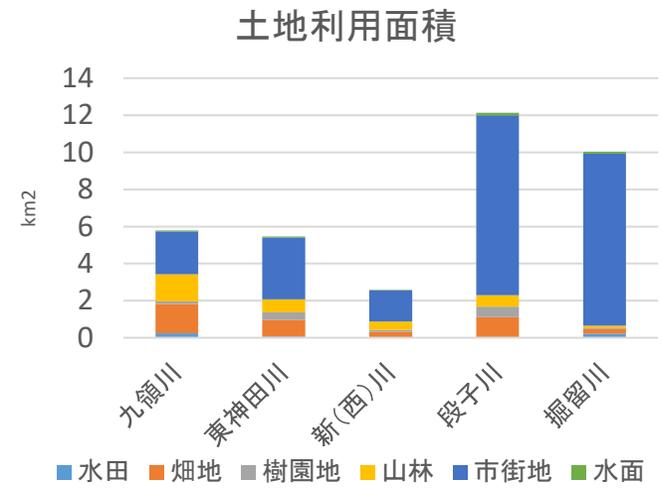
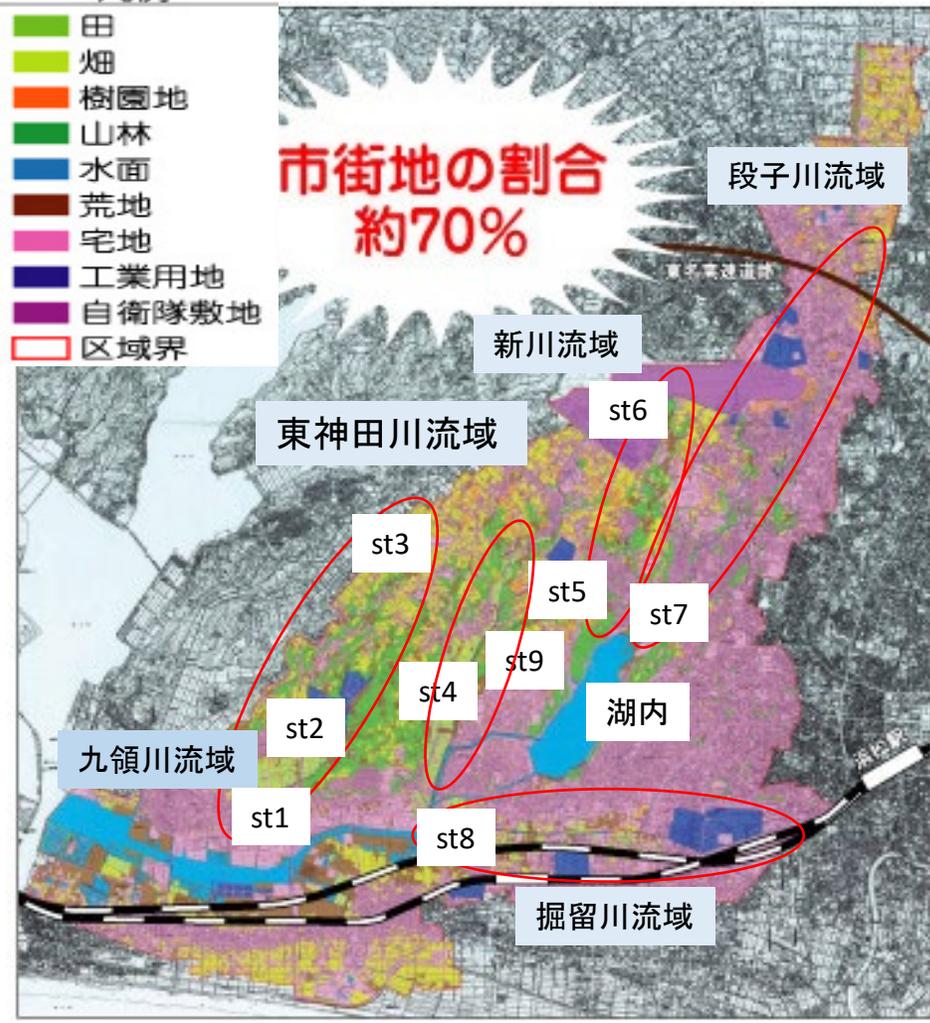
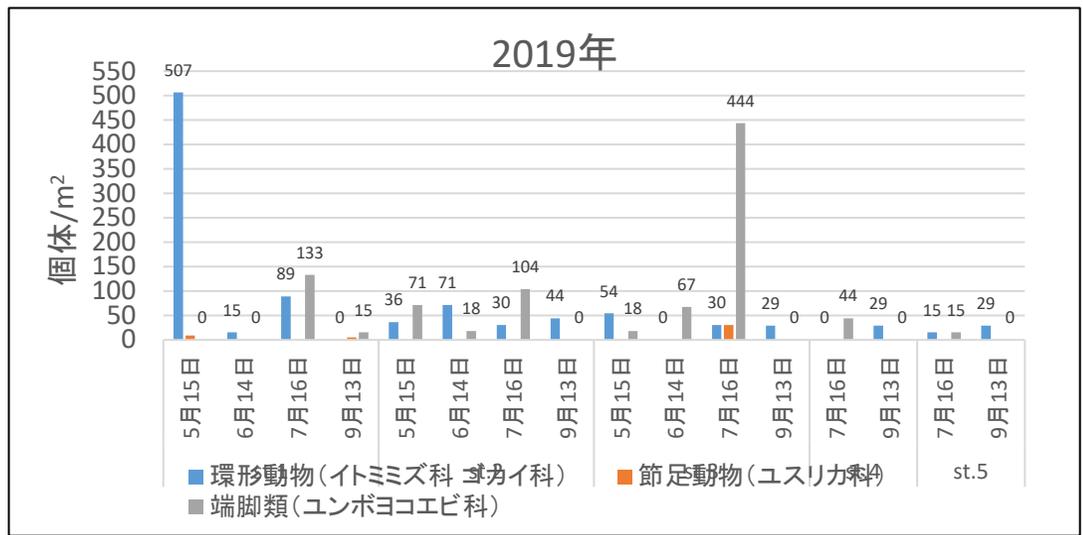


ネオニコチノイド系農薬が佐鳴湖流域の生態系に与える影響

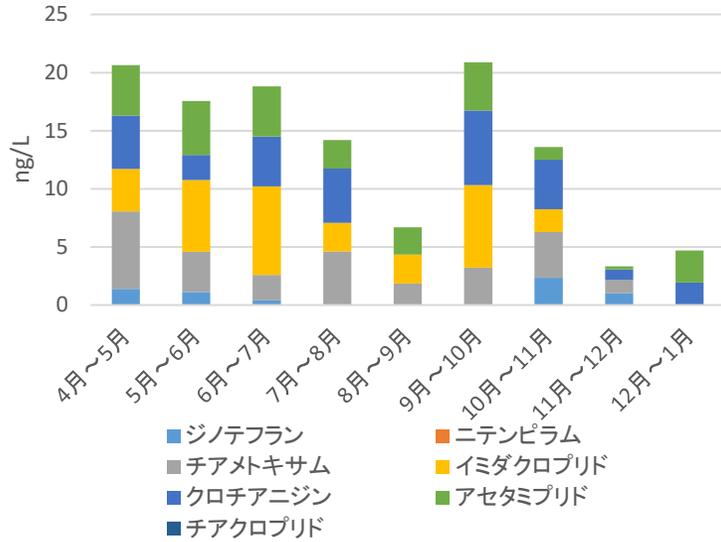
佐鳴湖流域調査地点 2019年4月～2020年2月



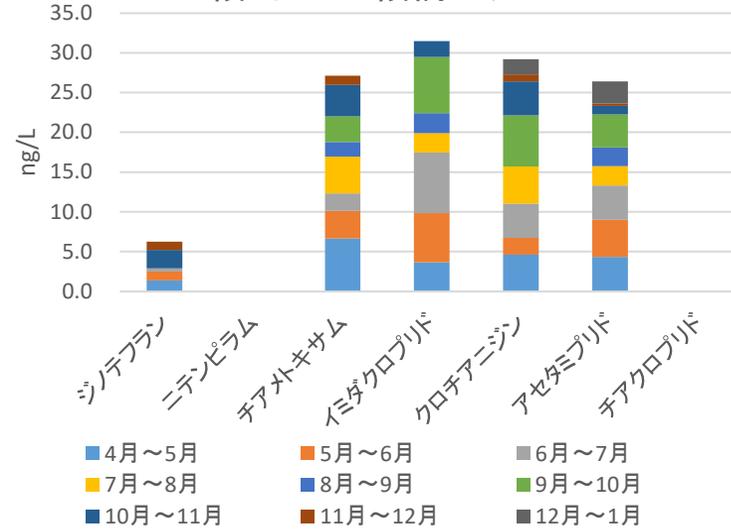
調査方法: ①パッシブサンプラを毎月設置し、1日当たりの平均値
 ②降雨後の河川水増水時の水試料
 目的: ①土地利用によるネオニコの種類と負荷の違いを調査
 ②佐鳴湖の底生動物とネオニコとの関連を調査



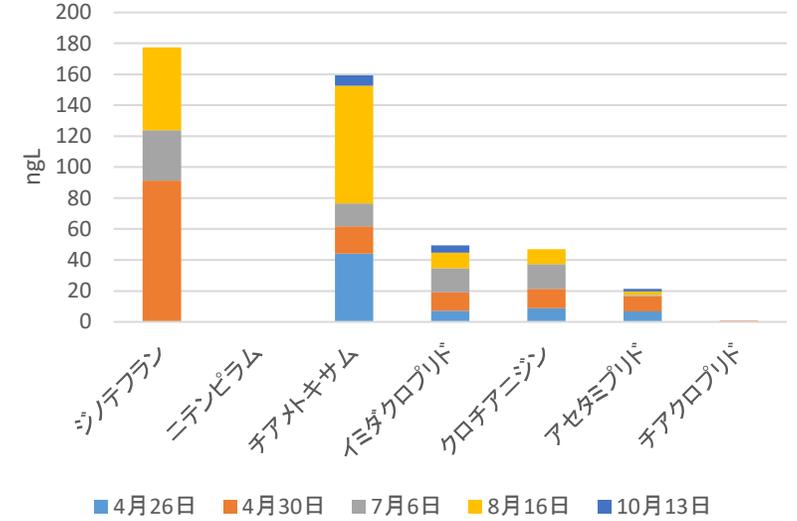
九領川st.1九領橋パッシブ



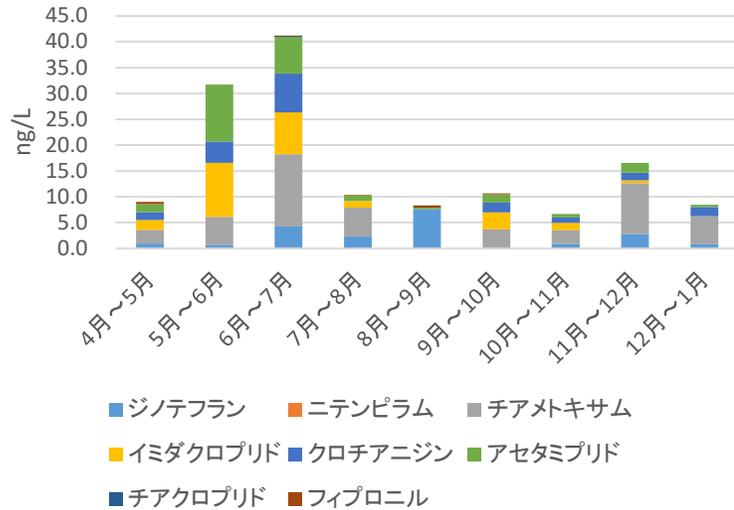
九領川st1九領橋パッシブ



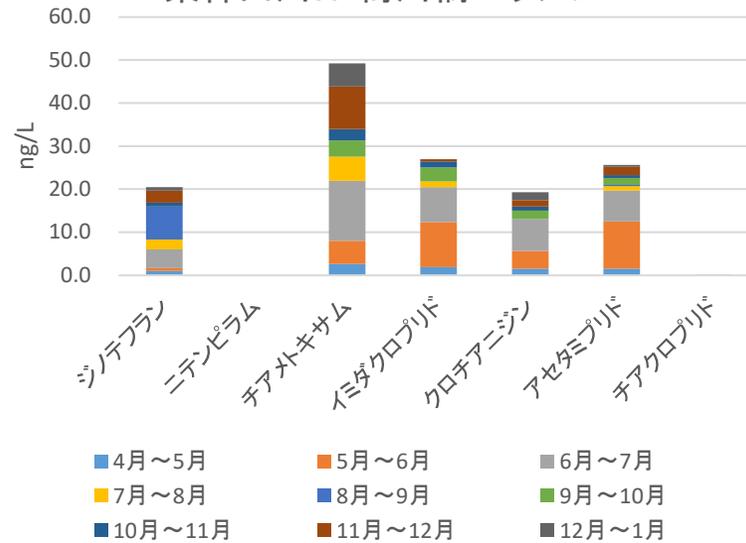
九領川 st1 九領橋水試料



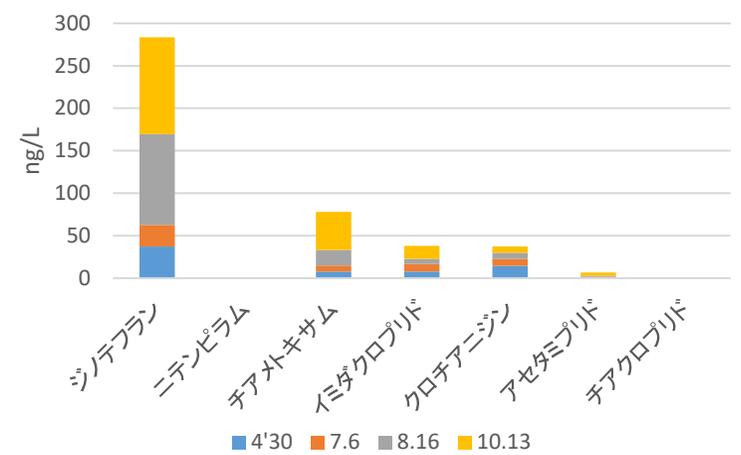
東神田川 st.4梅川橋パッシブ



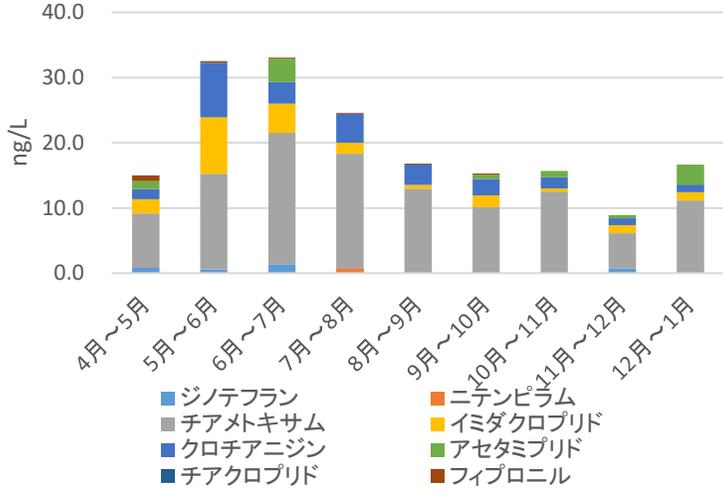
東神田川st4梅川橋パッシブ



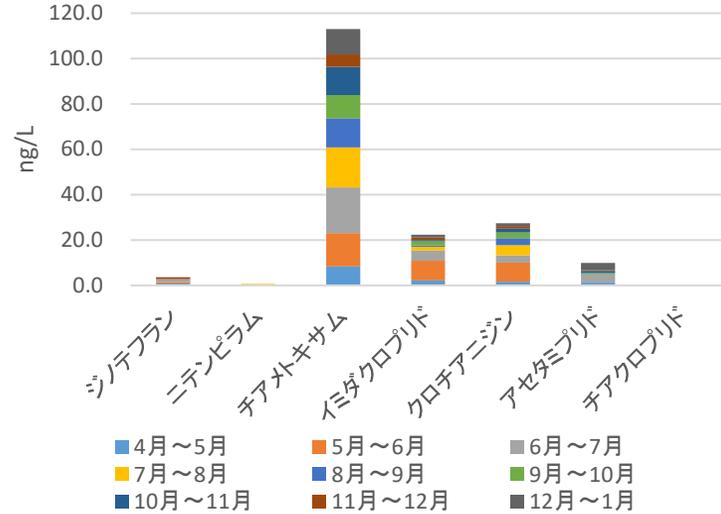
東神田川st4梅川橋水試料



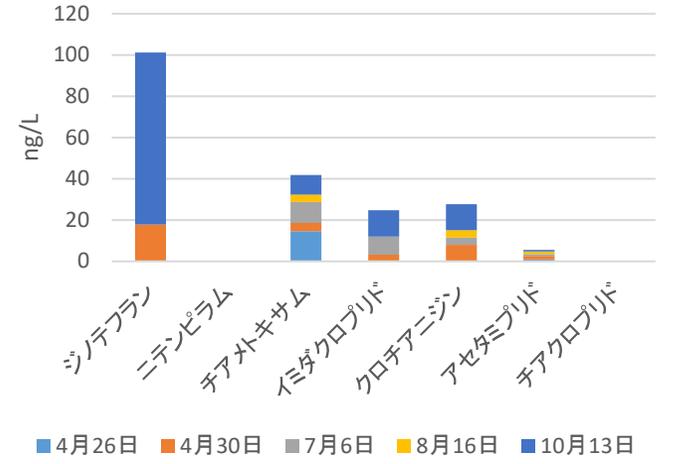
新川 st.5出合橋パッシブ



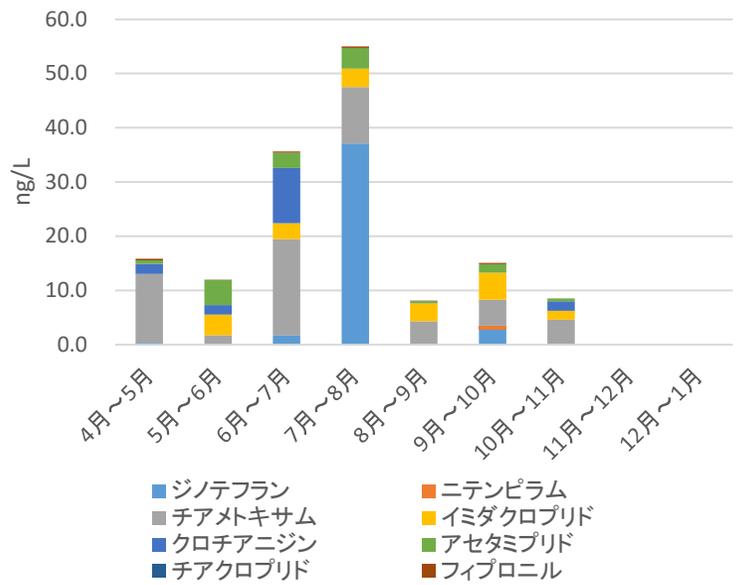
新川st5 出合橋パッシブ



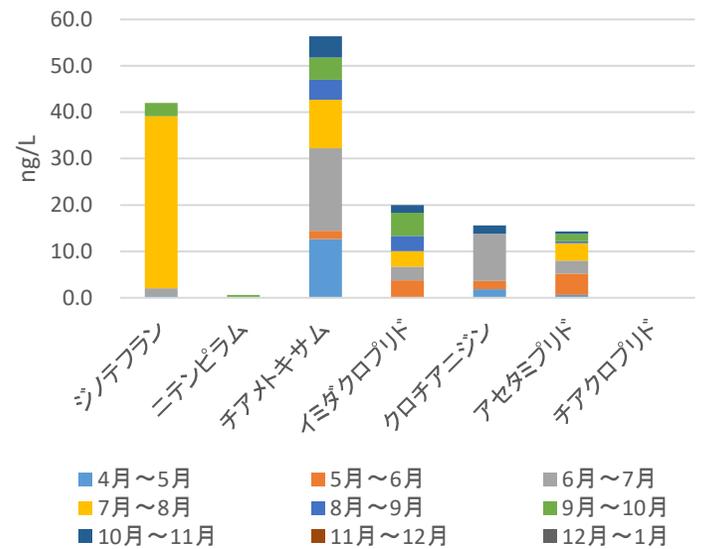
新川st5出合橋水試料



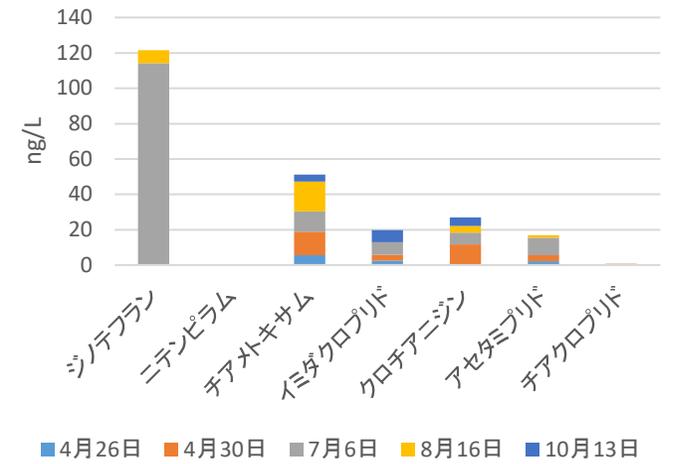
段子川st.7 新富塚橋パッシブ



段子川st7新富塚橋パッシブ



段子川st6 新富塚橋水試料



世界のネオニコの表層水調査:水生種の95%を保護する閾値の平均は35ng/L(Morrissey et a 2015)

河川	期間	ネオニコ濃度	多いネオニコの種類 パッシブサンプラー	水試料
九領川	4～5月 9～10月	21ng/L	イミダクロプリド クロチアニジン チアメトキサム	ジノテフラン チアメトキサム
東神田川	6～7月	42ng/L	チアメトキサム	ジノテフラン
新川	5～7月	32ng/L	チアメトキサム	ジノテフラン
段子川	6～9月	35～54ng/L	ジノテフラン	ジノテフラン
掘留川	6～7月	20ng/L	イミダクロプリド クロチアニジン チアメトキサム	ジノテフラン
佐鳴湖表層	6～7月	33ng/L	イミダクロプリド クロチアニジン チアメトキサム	ジノテフラン

- ・イミダクロプリド クロチアニジン チアメトキサムが多い 水生生物に遅発性の慢性毒性があり 閾値の平均を上回る河川がある
- ・佐鳴湖流域のネオニコは低濃度と考えられるが、低濃度による慢性毒性の実態調査が課題である ユスリカの生存は極めて少なくネオニコの影響が考えられる